

米国カリフォルニア州 晩生品種のスモモに強力な販売促進

[FreshPlaza](#) 2025年9月8日

今夏のカリフォルニア州では品質の良い果実に関する報告が多く見られ、今回はスモモに関するものである。ニッキー・グレゴリー社の購買担当副社長であるブレア・グリーンヒル氏は、「極端な高温が少なく、悪影響も少なかった。天候は穏やかであったが、サンホアキンバレー地域では気温が110～115度(43～46℃)になることもあり、これはスモモの内部品質に悪影響を及ぼし、果実の日持ちを低下させる。サイズはやや小さめだが、品質は昨年よりもずっと良い。雹害も少なかった」と述べた。(以下「」は同氏の話)

供給量全体としては、黒スモモの収穫量は平年比で25%程度少ないものと見られ、赤スモモもわずかに少ない。それでも現在、販売促進可能な十分な供給量がある。

今はちょうど、糖度が高く食味に優れた最良の品種が出回る時期でもある。黒スモモでは、晩期品種の一つであるアンジェリーノの出荷が始まった。「今後2～3週間で、オータムマジック、パープルハニー、ブラックチェリーといった大変良質な品種が増えてくる。赤スモモでは、非常に甘く、仕上がりの色が鮮やかなシュガーハートを出荷している。晩生赤色品種のフレーバーフォールの出荷も始まりつつある。その後、オータムトリート、ロゼットジュエル、フレーバーバーストがシーズンを締めくくる。」

品質が需要を後押し

今のところ、スモモの需要は安定しており良好である。「ちょうど今のように品質が非常に優れているとありがたい。硬めで糖度の高い果実が入荷しており、そのような状態だとリピート注文がすぐに入る。品質が良いと、それ自体が需要を喚起する。」

価格面では、今後の供給が逼迫すると見られることから、黒スモモの価格が今まさに上昇傾向にある。

今後の見通しとしては、カリフォルニア州産の赤スモモは感謝祭(11月27日)まで、あるいは12月中旬まで続く可能性があり、黒スモモはその後さらに1カ月から6週間ほど続く見込みである。「カリフォルニア州産が終了すると、1月下旬のチリ産スモモの到着を待つことになる。それらは4月初旬頃まで続く。その後はカリフォルニア州産が再開する5月の後半まで空白期間が生じるのが普通である。」

スモモは、同社が9月10～13日にノースカロライナ州シャーロット市で開催されるサザンイノベーション展示会で取り上げるものの一つに過ぎない。「展示会では、弊社の全サービス内容を確実に知ってもらうために、常に働きかけを行うことが求められる。ファミリーフレッシュフーズ社は弊社の加工部門であり、グレゴリーファミリーエクスプレス仲介会社は物流の斡旋を行っている。弊社は卸売、再梱包及び流通を担っており、新設された小売部門ではDSD(店舗直接納品)及び取引先小売業者への店舗陳列支援を提供することができる。」(展示会への出展の詳細省略)

執筆者: アストリッド・ファン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)